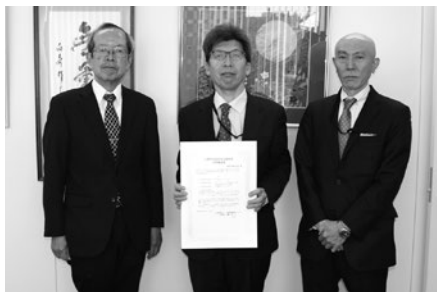


「より良い運転管理」目指し

JWRC 前澤工業にA-I-D-E-A成果確認書



安藤理事長と確認書を手にする前澤工業関係者

の経験則を形式知化する
ことで、単に人手不足を
補うだけでなく、「より良
い運転管理」を目指すも
のとして研究を行っても
らった。研究成果は水道
事業体に活用してもらっ
てこそ実りあるものとな
る。当センターとしても
広報媒体やセミナーを通
じて成果の普及に努めて
いきたい」と話した。

した。テーマ
のうち「ピッ
グデータを活
用した原水水
質の予測」で
は、浄水場に
蓄積した原水
水質等のピッ
グデータを活
用して数時間
後の原水にお
けるかび臭濃
度を予測するモデルを構
築。1年分のデータを学
習することで、3時間後
のかび臭濃度を予測でき
ることが確認できた。「画
像解析を用いた凝集判定
手法の研究」では緩速攪
拌直後の凝集フロックの
画像データから凝集の良
否を判定。凝集剤の不足
や沈殿処理水濁度の異常
に早期に対応でき、安全
な沈殿池管理に寄与する
とした。

前澤工業の根本雄一・
環境R&D推進室技術開
発センター長は、「実際の
の原水を使い、事業者の
生の声を聞きながら実証
研究に取り組める貴重な
機会となった。今後も実
際の浄水処理にどのよう
に適用できるかなどを含
め研究を進めたい」と
語った。

A-I-D-E-Aは、新技
術の開発に取り組む企業
に対し、実証研究フィー
ルドの提供元事業者との
マッチング等を支援する
事業。今回で6例目の成
果確認となる。

水道技術研究センター
(JWRC)は3月22日、
公募型実証研究支援事
業(A-I-D-E-A)の成
果確認書授与式を開き、
「ディープリンクを
活用した自律型浄水支援
システムの開発」に取り
組んだ前澤工業の担当者
に安藤茂・理事長が確認
書を手渡した。

実証研究は2019〜
23年度にかけて実施。2
月26日にJWRCが開催
した実証研究支援委員会
を通じて成果を確認し
た。

同社の取り組みは、技
術系の人材不足を補うと
ともに、浄水プロセスに
おける意思決定を支援す
るシステム開発を目的と
したもので、埼玉県企業局
の吉見浄水場をフィールド
として2つのテーマに
関して実証を行い、実原
水における有効性を検証

安藤理事長は「技術者